

牧師、バイカー、鮭職人として。。。シェア from LA 第63話 ホーリーグラウンド篇 ⑤「フード・ミニストリー」

行き場を失った様々な人々を受け入れて来たホーリーグラウンド教会は、毎週水曜日の夕方に低所得者らに向けて食糧支援を行う「フード・ミニストリー」もしている。興味津々で一度見学に行ったことがある。そもそも同教会は低所得者らが居住する地域にあり、加えて周辺は工場や倉庫なども林立しており ずいぶん殺風景な場所にある。

その頃、すでにホセ牧師は退職し、故郷のマイアミへ戻って行ったので、彼のパートナーとして共に牧会してきたマーティン牧師が引き継ぎ運営していた。彼も元ギャングで相当なワルだったが、今は神と地域に仕える身で、その日も陣頭指揮を執っていた。見ると、粗末な折り畳みテーブルを長く一列に並べ、その上にペットボトル飲料や2ガロンのボトルに入ったミルクやジュースのほか、スナック類や缶詰、ピザやサンドイッチなどが箱入りで並べられ、訪問者も1列に並んで欲しいものを受け取っていく仕組みだ。その日は100人ばかりの人がやって来た。

これら食糧の殆どが地元のスーパーマーケットやレストラン、コカ・コーラなどの工場や、“ピザハット”、“タコベル”、マクドナルド”など大手外食チェーンの店舗からの提供品だ。ガラの悪い牧師が小汚い場所で運営する教会ではあるが、市やコミュニティにしっかり食い込み、大手企業の賛同も得るとは大したものだ。

さらに目を見張ったのが食糧品の受け渡しを担当する多くのボランティアたちだ。彼ら彼女らは今でこそ教会メンバーだが、かつてはホームレスや失業者など、行くアてもなかったような人々。今はキリストと出会い、罪が赦され、癒しと再生を経験しつつ、困っている人を助け、日々イエスに従い奉仕に励む。つまり「助けられる側から助ける側へ」と成長したのだ。なるほど！「救われたのは救うため」とは正にこのことだ。

教会に助けや癒しを求めて来る人は多い。教会とはそういう場所だ。しかしいつまでたっても「してもらっただけ」の人も多い。それはNGだ。その結果、教会に何年通っても子供のように未熟で、いつも不満タラタラ、喜びがなく暗い。だが心配無用。ここにその解決法がある。“イエスのファン”ではなく弟子になること。イエスに従い、彼から聖霊の力をいただき、他者を助けることによって“自家発電”のごとく自身が強くなる。そういう人が増えることによって世の中は良くなれるのだ。

「こうして、聖なる者たちは奉仕の業に適した者とされ、キリストの体を造り上げてゆき、ついには、
私たちは皆、神の子に対する信仰と知識において一つのものとなり、成熟した人間になり、キリストの
満ちあふれる豊かさになるまで成長するのです。」 エペソ人への手紙4章12-13節：共同訳

